

## 保育学科におけるキャリア教育の取組と考察

—令和6年度保育学科2年生のキャリア教育の教育実践報告からみた学生の変容と課題—

兼 重 勇

Career Education in the Department of Early Childhood Education:  
Analysis of Student Development Based on the 2024 Practicum Report

by  
Kaneshige Isamu

### 要旨

本稿は令和6（2024）年度における保育学科2年生のキャリア教育の教育実践報告及び卒業生・採用事業所アンケート結果とその分析をもとに、本学のキャリア教育の取組について考察を行なったものである。

令和6（2024）年度保育学科2年生のキャリア教育では、前期の「キャリア総合Ⅱ」で自分の進路に関して必要とされる専門的な知識・スキルを身に付けることを目的に講義を行ない、後期の「キャリアデザインⅡ」で「キャリア総合Ⅱ」において培った学びを基盤に、面接試験に向けた準備と模擬面接、就職後に向けて各分野の専門の講師からの講演・演習等を中心に講義を実施した。講義前後のアンケート結果から本学保育学科の受講生は、個人として自分の意見を簡潔に述べたり、インターネットを使って情報収集しスライド等の作成をしたり、自分の長所や短所をまとめて履歴書等を作成したりする基礎的・基本的な知識や技能は身に付いているが、グループ活動を通じて適切にリーダーシップやフォロワーシップを発揮したり、ディベート等の活動で適切なアドバイスをしたりすることを苦手としており「課題対応能力」や「人間関係形成・社会形成能力」に課題があることがわかった。

卒業生・採用事業所アンケート結果では、「危機管理能力」、「専門的な知識」、「専門的な技能」、「コミュニケーション能力」の更なる向上が必要であり、実践的・体験的な活動の増加や一般企業希望者にはインターンシップの導入など講義内容や教育課程の工夫改善が必要であることがわかった。

キーワード：保育学科におけるキャリア教育、卒業生アンケート、採用事業所アンケート

## 1 はじめに

「2004年はキャリア教育元年」といわれ、この年に文部科学省が「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」で進路指導の中核としてキャリア教育の推進を提言した。この年から約20年が経過し、令和6（2024）年度保育学科2年生の大部分の学生は小学校から中学・高校と本格的に学校教育においてキャリア教育が行なわれてきた世代にあたる。

この20年間で学校教育におけるキャリア教育の定義やその内容は少しずつ変化してきたが、現在文部科学省はキャリア教育を次のように定義している。

○人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」であるとされています。

○一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育が「キャリア教育」です。<sup>（注1）</sup>

本稿では前半で令和6（2024）年度保育学科2年生のキャリア教育の教育実践報告を、後半で受講生アンケート及び卒業生・採用事業所アンケート結果をもとに本学のキャリア教育の取組について考察を行っていく。

## 2 令和6（2024）年度保育学科2年での キャリア教育の取組

1年次で「自己理解」、「保育職」、「社会人基礎力」、「保育者としての働き方」を知った上で、2年次は「進路を具体化するための方策」、「保育者として社会に出る準備」を柱にして、以下の項目で述べてみたい。

### 2・1 前期 科目名「キャリア総合Ⅱ」

#### 2・1・1 講義の概要

2011年の中央教育審議会の答申では、キャリア教育においてとりわけ重視すべき育成対象の能力を「基礎的・汎用的能力」とし、具体的には「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの能力をあげている。

これを受けて「キャリア総合Ⅱ」では自分の進路に関して必要とされる専門的な知識・スキルを身に付けることを目的に、①社会の中の自己認識の可視化（「自己理解・自己管理能力」、「キャリアプランニング能力」の向上）②社会に対する知識・理解の深化（「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の向上）、③就職試験や就職後に必要となる構成力・表現力・説明力といったプレゼンテーション力の育成（「課題対応能力」、「人間関係形成・社会形成能力」の向上）④思考力・判断力・表現力の育成（「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の向上）⑤他者と協働した作業効率の向上（「人間関係形成・社会形成能力」）を目標として設定し、それぞれの目標に沿った講義や演習、グループ活動を行なった。

#### 2・1・2 講義のテーマ及び到達目標

- ・社会の中における自己理解の可視化
- ・社会における出来事の整理と発表
- ・スライド作成や発表等を通したプレゼンテーション力の向上
- ・ディベートを通した社会に対する知識の深化と情報の整理
- ・ディベートを通した立論、質問、反論、口述筆記する力
- ・グループ活動を通した他者と協働した作業効率の向上
- ・履歴書作成及び面接試験に向けた事前準備

### 2・1・3 講義内容

「自己理解の可視化」4/12

- ・自己紹介
- ・これまでの自分の人生の上り下りを曲線で表現した自身の\*ライフラインチャート作成
- ・グループ毎による20歳から85歳までの「仮想ライフラインチャート」作成と発表

「新聞記事を読んで感想・意見」4/19

- ・4つの新聞記事を読んで「共感的感想」「批判的感想」「自分ならどうする」について記述

「テーマ別発表」4/26、5/10、5/17、5/24、5/31

- ・テーマ、サブテーマの決定
- ・クラスタリングによる「関係チャート」の作成
- ・グーグルスライド作成（文字、画像、YouTube動画を利用）
- ・グループ発表
- ・学生による相互評価

以下の9つの評価基準により5段階で学生による相互評価を実施した。

- a テーマ、サブテーマに沿っているか。
- b 発表内容全体を通じて筋が通っているか。※首尾一貫しているか。
- c 知識の羅列ではなく、共感的・批判的感想や自分達の意見が入っているか。
- d 「重たい内容」と「軽い内容」のバランスが、聴衆から見てもちょうどいいか。
- e 発表の中に聴衆を引き付ける「目玉」があるか。
- f 聴衆から見て、伝えたい内容が「分かりやすいスライド」か。
- g 深堀するところとサラッと流すところの「メリハリのあるスライド」か。
- h 分かりやすくハッキリした説明になっているか。※簡潔明瞭か。
- i グループとして協力、分担して発表しているか。※チームワークはいいか。

「ディベート」6/7、6/28、7/5、7/19、7/24

- ・ディベートについて説明
- ・ディベート試合（ステージI）の準備  
以下についてインターネット検索等で作業を実施
  - a 立論の根拠をさがす
  - b 相手の立論に対する質問をつくる
  - c 相手の質問に対する答えを用意する
  - d 自分たちの意見を実行する
  - e プランをつくる試合での役割分担をする
  - f ディベートの試合に向けたシート作成
  - g ディベート試合（ステージ1）

以下の4つの論題について8グループで4試合を実施した。

- ◎地震の多い日本であるが原子力発電は必要である。
- ◎コロナでテレワークやリモートワークが広がったが、今後も増やすべきである。
- ◎スーパーやコンビニにおいて有料レジ袋は継続すべきである。
- ◎「ブラック校則」が問題になっているが、日本の高等学校には制服が必要である。

また、以下の評価基準で聴衆であり審判である学生が評価し勝敗を判定した。

- 立論：筋道立てた説明ができているか。
- 立論等：理由や根拠（証拠）をきちんと示しているか。
- 質疑：相手の論に対する質問ができているか。
- 反駁：質問に対する有効な反論ができているか。
- まとめ：聴衆に対して自分たちの論の正当性をアピールしているか。

- ・ディベート試合（ステージII）

ステージIと同じ準備の後、以下の4つの論題について8グループで4試合を実施した。



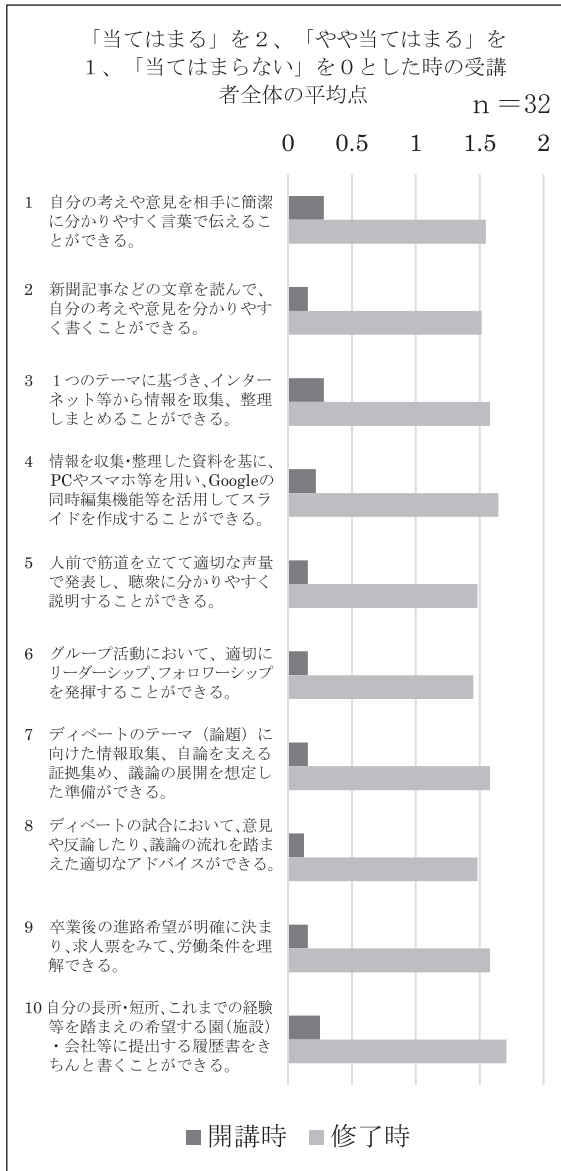


図2 「キャリア総合Ⅱ」受講における学生の変化

たのは項目10の「自分の長所・短所、これまでの経験等を踏まえ、希望する園(施設)・会社等に提出する履歴書をきちんと書くことができる。」(1.71)であった。また、修了時の数値が最も低かったのは項目6の「グループ活動において、適切にリーダーシップ、フォロワーシップを発揮することができる。」(1.45)であった。また、「この授業で知識・理解・技能が向上した」について、向上したを3、やや向上したを2、変化なしを1として数値化したところ平均は2.81であった。

これらの結果から本学保育学科の受講生は、個

人として自分の意見を簡潔に述べたり、インターネットを使って情報収集しスライド等の作成をしたり、自分の長所や短所をまとめて履歴書等を作成したりする基礎的・基本的な知識や技能は身につけているが、グループ活動を通じて適切にリーダーシップやフォロワーシップを発揮したり、ディベート等の活動で適切なアドバイスをしたりすることを苦手としており「課題対応能力」や「人間関係形成・社会形成能力」に課題があることがわかった。

## 2・2 後期 科目名「キャリアデザインⅡ」

### 2・2・1 講義の概要

キャリア総合Ⅱで培った①～⑤の学びを基盤に、面接試験に向けた準備と模擬面接、就職後に向けて各分野の専門の講師からの講演・演習等を中心に授業を実施した。

### 2・2・2 講義のテーマ及び到達目標

就職試験に向けた面接力を育成する。

各テーマ学習を通じた就職後に必要となる様々な資質能力の向上を図る。

### 2・2・3 講義内容

#### 「面接指導」

- 基本的な面接指導 9/20

基本的な面接の作法と流れ、想定質問への回答、学生同士による面接練習

- 模擬面接 9/27

6ブースに分かれて1人10分程度の模擬面接

#### 「担当者による講義」

- 「社会人としての言葉選び・言い回し」

10/4

- 「上手な話し方・聞き上手」 1/15

#### 「外部講師によるテーマ別講義」

- 「保育者・教育者となる皆さんへ」講師：元こども園園長 10/25

- 「人と人とのよりよい関係～デートDVを知

っていますか?～」講師：プリベント・L代表 11/1

- ・「知っておきたい年金のはなし」講師：年金事務所職員 11/8
- ・「社会人として知っておくべき雇用関係のキホン」講師：弁護士法人所属弁護士 11/15
- ・「スペイン文化と育児」講師：山口県国際交流員 11/22
- ・「ネイチャーゲームの体験、特徴と理念」講師：下関シェアリングネイチャーゲームの会 会員 12/6
- ・「e ネット安心・安全講座」講師：テレトピアホールディングス代表取締役社長 12/20
- ・「社会人としての在り方」講師：山口しごとセンターカウンセラー 1/10
- ・「桂ゆきとコラージュ作品」講師：下関市立美術館学芸員 1/23
- ・「災害後も自宅で過ごす『在宅避難』のススメ」講師：明治安田生命保険相互会社山口支社下関長府営業所 営業所長 1/24
- ・「消費者トラブル対策講座」講師：下関市消費生活センター消費生活相談員 1/29

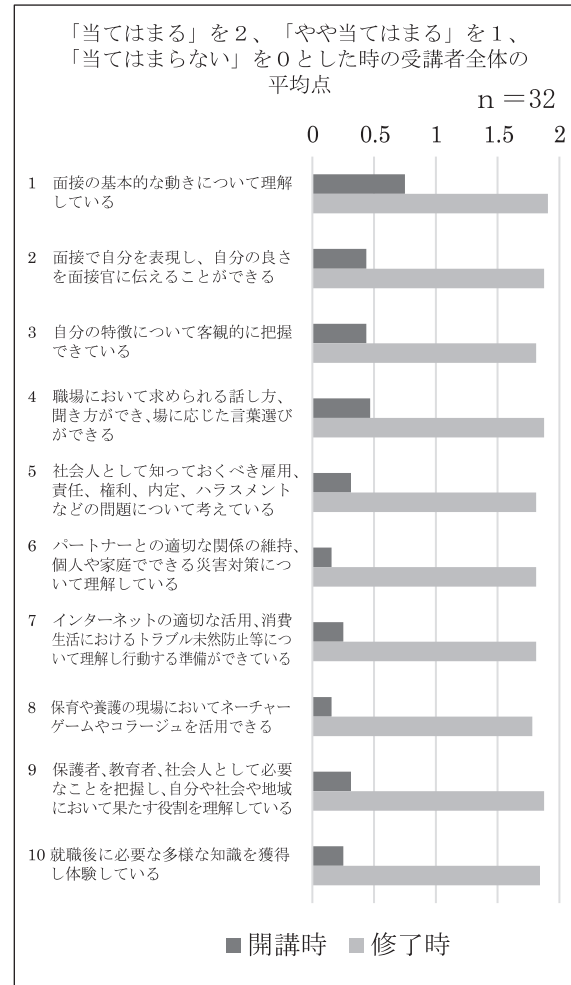


図3 「キャリアデザインⅡ」受講における学生の变化

#### 2・2・4 「キャリアデザインⅡ」の開講時と修了時の受講学生の変化

後期の講義内容に沿って10項目を設定し、アンケートを行ない開講時と修了時の学生の変化を数値化した。(受講学生32人を対象に実施)

開講時に最も数値が低かったのは、項目6の「パートナーとの適切な関係の維持、個人や家庭でできる災害対策について理解している」と項目8の「保育や養護の現場においてネイチャーゲームやコラージュを活用できる」の0.16であった。最も数値が高かったのは項目1の「面接の基本的な動きについて理解している」の0.75であった。項目1については、これまでも高校などで基本的な内容は指導を受けていることから比較的高くなっていた。その他の項目については、初めて学習することも多く数値が低くなっていた。

修了時での調査では開講時に比べてどの項目も数値が上昇した。(開講時10項目平均0.35→修了時1.84)最も数値が高くなったのは項目2の「面接で自分を表現し、自分の良さを面接官に伝えることができる」、項目4の「職場において求められる話し方、聞き方ができ、場に応じた言葉選びができる」、項目9の「保護者、教育者、社会人として必要なことを把握し、自分や社会や地域において果たす役割を理解している」の1.88であった。また、修了時の数値が最も低かったのは項目8の「保育や養護の現場においてネイチャーゲームやコラージュを活用できる」の1.78であった。また、「この授業で知識・理解・技能が向上した」について、向上したを3、やや向上したを2、変化なしを1として数値化したところ平均は2.65であった。

後期の講義は、就職面接や就職後の社会生活に必要な知識や技能を様々な分野の専門家から直接講義を受ける形式であったことから、学生にとって未知の分野の事柄については大きく数値が伸びている。また後期はいよいよ社会に出ていく直前の時期でもあったことからそれぞれの講義に対しても主体的に取り組むことができたようである。

### 3 キャリアアンケートの結果から見える 本学学生の概要

令和6年度の「キャリアデザインⅡ」の最終講義日（2025年1月29日）に保育学科2年32人を対象にキャリアアンケートを実施した。以下はその結果である。

#### 3・1 受講学生の年齢分布

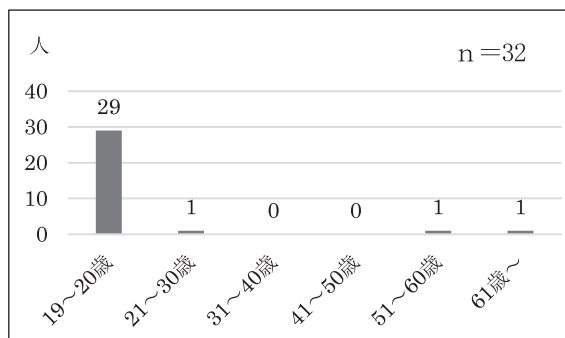


図4 受講学生の年齢分布

19～20歳が32人中29人（90.6%）で最も多く、訓練生や社会人学生も在籍しているため21～30歳、51～60歳、61歳以上がそれぞれ1名ずついる。アンケートの中では社会人経験や家庭の有無により個々のキャリア意識の違いが見受けられた。

#### 3・2 男女の構成

男女の構成は男性が7人（21.9%）、女性が25人（78.1%）である。

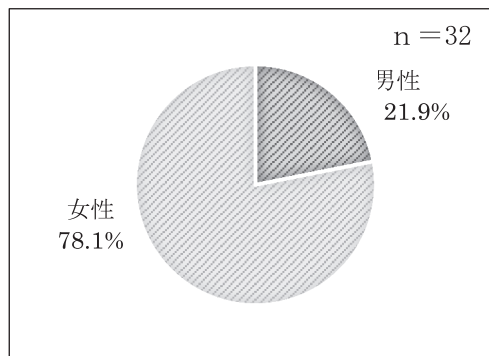


図5 男女の構成

#### 3・3 卒業後就業予定の仕事

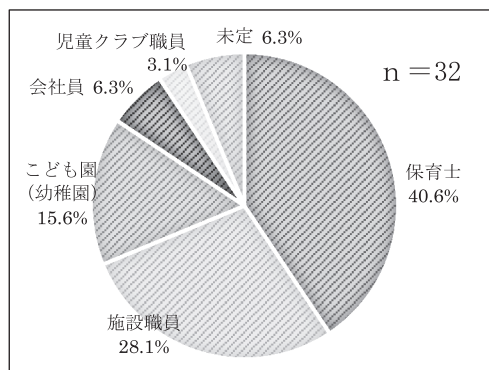


図6 卒業後就業予定の仕事

講義最終日時点（2025年1月29日）での卒業後就業予定の仕事は、保育士が13人（40.6%）、施設職員が9人（28.1%）、こども園（幼稚園）が5人（15.6%）、会社員が2人（6.3%）、児童クラブ職員が1人（3.1%）、未定が2人（6.3%）となっている。

ほとんどの学生が保育士や幼稚園教諭の資格を活かした進路先への就業予定であったが、企業の一般職への就業予定の学生も2名いる。

#### 3・4 仕事を決めた時期、決めた理由

仕事を決めた時期を見てみると中学生の頃8人（25.0%）が最も多く、次に短大に入ってから7人（21.9%）、高校生の頃6人（18.8%）と続く。中学生の頃が最も多くなっているのは、本学付属高校保育コースからの進学者が最も多いためと考えられる。また、短大に入ってからが2番目に多いのは、保育学科入学後施設実習や幼稚園実習を実際に経験する中で、保育園以外の施設等の職場

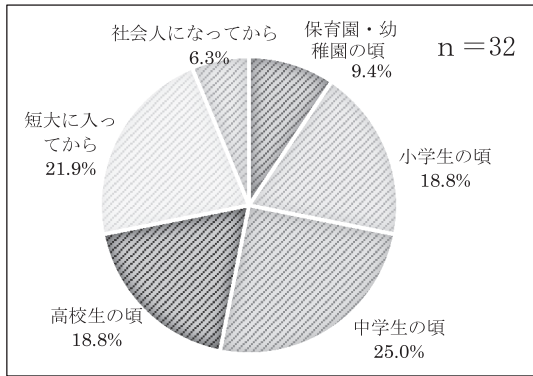


図7 仕事を決めた時期

を経験したり、保育士や幼稚園教諭への自身の適性について考えなおしたりした学生もいるからと考えられる。社会人になってからも2人(6.3%)回答しているが、本学には訓練生や社会人学生も在籍しておりセカンドキャリアとしての選択と考えられる。

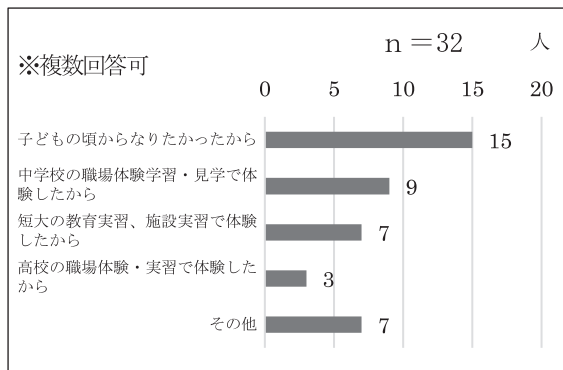


図8 仕事を決めた理由

仕事を決めた理由(複数回答可)については、「子どもの頃からなりたかったから」が15人で最も多く、次が「中学校の職場体験学習・見学で体験したから」の9人となっており、現在キャリア教育の一環として中学校で行なわれている職場体験学習・見学の影響も大きいことがわかる。

その他では「母が保育士だったこと。」など身近な人物の影響をあげる回答や、「先生方が好きだったから」と自身の経験をあげる回答、「子育て支援や働く女性のために」のような社会貢献的な回答も見られた。

### 3・5 将来の自分のキャリア計画とキャリア目標

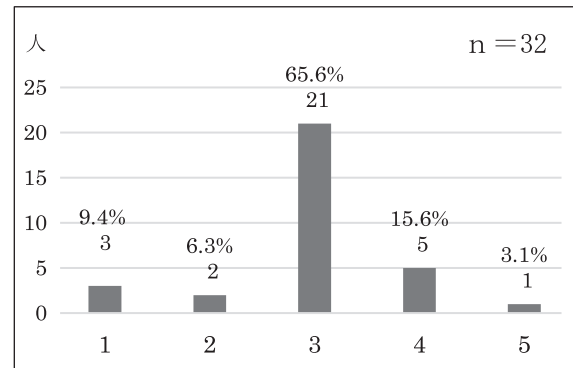


図9 将来の自分のキャリア計画

自分の将来のキャリア計画を「全くない」を1、「非常に具体的な計画がある」を5として1～5の数値で質問したところ、5「非常に具体的な計画がある」と答えた学生は1人、1「全くない」と答えた学生が3人で、21人(65.6%)が3と答え、全体の平均は2.9であった。

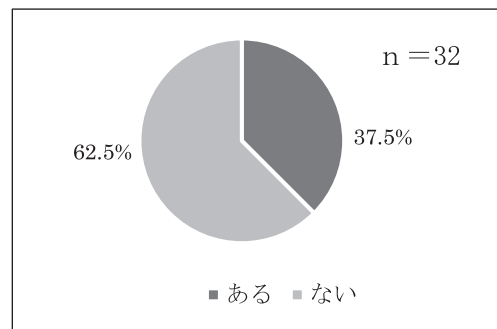


図10 キャリア目標の有無

キャリア目標の有無については12人(37.5%)が具体的な目標がある。24人(62.5%)が具体的な目標がないと回答している。

学生の回答した具体的な目標としては「就職するグループ内で経験を積み、最終的にグループ内の子育て支援センター勤務をすること」、「様々な資格を取得し、知識を増やす」、「保育園での勤務」、「企業での勤務」、「社長」、「自営業保育」、「働きながら家庭を持ちたい」、「健康寿命のある間は保育者として働きたい」、「保育園を10年以上して幼稚園で働きたい」などがあげられていた。

前後期の講義を通じてグループでの「仮想ライ

フラインチャート」作成や個人での「5年後の自身の姿」の課題作文も実施したが、就職以降の自身のキャリア形成の具体的なビジョンをもつことがなかなかできない傾向が見られた。全体的に保育士や幼稚園教諭になるという具体的な目標をかなえた後の個々の具体的なキャリアプランにやや課題がみられた。

### 3・6 キャリアデザインⅡの講義で特に将来の仕事や生活に役立つと思った講義

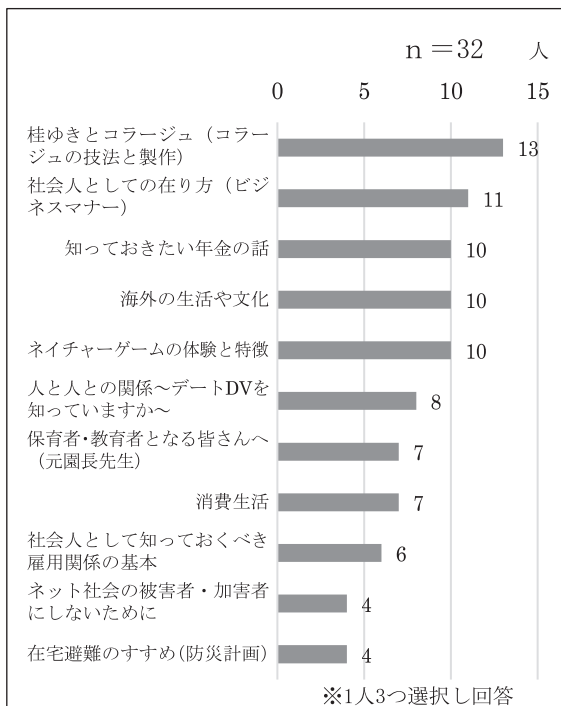


図11 キャリアデザインⅡの講義で特に将来の仕事や生活に役立つと思った講義

1位が桂ゆきとコラージュで13人であった。この講義は学生の講義時の感想で「保育園・幼稚園等で実際に活用できる」、「実際に授業に取り入れてみたい」との意見が多く見られ、学生の印象に残ったと考えられる。

2位の社会人としての在り方 (ビジネスマナー) については、日頃の保育関係の講義とは違った社会人としての基礎的なマナーを具体的に知る講義であった為、学生からの評価の高い講義であった。

後期の講義は学生にとって保育園や幼稚園、施設の実習や就職試験が終わり、将来の職業生活が

具体的に覚えてきたことからより即時的に有効な講義が上位にきていることがわかる。

### 3・7 本学キャリア教育プログラムにどのような改善が必要か

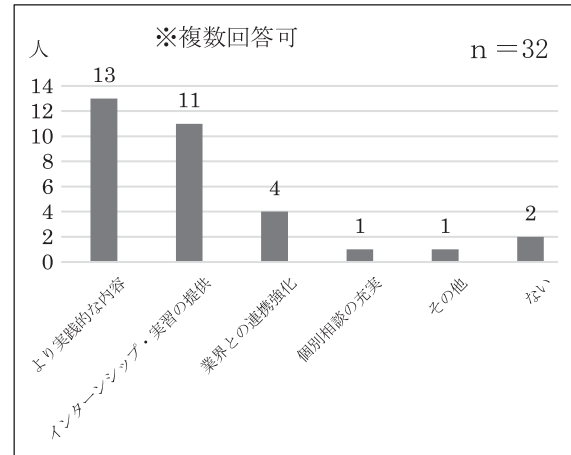


図12 本学キャリア教育プログラムにどのような改善が必要か

「本学キャリア教育プログラムにどのような改善が必要か」については「より実践的な内容」が13人 (40.6%) で最も多く、次いでインターンシップ・実習の提供11人 (34.4%)、業界との連携強化4人 (12.5%)、個別相談の充実1人 (3.1%) であった。

具体的な意見としては「より実践的な内容」については、「保育士になる上でだけでなく人として社会人としての基本を知りたい」、「動画や実物が見たい。(作った物)」、「座学が多めだから体験などをしたい。」、「座学が多いイメージ」、「現役保育士の方の講義」、「記憶に残りやすい体験型授業 (作る、あそぶ、など)」、「記憶に残る体験」、「体験ができる機会を増やすと良いと思う」、「話を聞くだけでは分かりにくいことが多いので動画や実際にしてみるとわかりやすい。」「お金のことは特に必要」という回答がみられた。

「インターンシップ・実習の提供」については、「インターンシップなどを知らせてほしい。」「聞くだけではなく実際に行った方がよいから」、「体を動かすことも大切であると思ったから」、「業界との連携強化」では、「付属幼稚園との交流をも

っと親密に」、「個別相談の充実」では「相談を充実することで社会に出ても困らなくなるから」という回答があった。

学生の感想からは講義形式よりもより実践的な内容や体験的な内容、実習やインターンシップなどより就職後の現実を知る機会を望んでいることがわかる。毎年少数の一般企業への就職者もいることから、保育や施設関係以外のインターンシップ等の情報提供が課題である。

### 3・8 あなたにとってキャリア教育で最も重要だと思うことは何ですか

以下は「あなたにとってキャリア教育で最も重要だと思うことは何ですか。」の問いに自由記述で学生が回答したものである。

- ・自らの力で生き方を選択していくことができるような能力や態度を身に付けること。
- ・社会に生きる中で、順応できるように様々な分野を知っておくこと。(様々な分野：人間関係力、4月から「働く」という立場になる上で身に付けておくべきことなど。)
- ・自分のキャリアをはっきりとし、その目標に向けて様々な面で学ぶこと
- ・人として社会で生きていくための基礎を学ぶことが重要だと思う。
- ・自分の興味・関心があることがわからない学生が多いと感じました。養成校なので選択肢は少ないですが、現場の方の声をもっとリアルに聞くことができればよいと思いました。
- ・教育者・社会人としての基礎
- ・コミュニケーション能力
- ・人生をより豊かに生きていけるようにする。
- ・お金の知識
- ・社会性
- ・覚えておこうと思うような体験
- ・人間関係
- ・人間関係の形成
- ・将来の計画を立てること
- ・社会人として知っておくべきこと

- ・社会人としての基本を知ること
- ・社会人基礎力
- ・社会人としてのルールやマナー
- ・新社会人としてメンタルを壊さずにやっていくための情報
- ・自分の将来の職業について主体的に取り組むこと
- ・マナーの講座が一番大事だと思う。あまり習うことがないと思うから。実習前のキャリア教育であったらよいと思う。
- ・社会人(人)としての在り方
- ・社会に出たときに困らない情報・知識
- ・ネット社会に生きるために必要なこと
- ・チャレンジ精神
- ・社会に出たときに役立つ知識・技術を身に付けること
- ・生きて行く中でためになることを学べるかが最も重要
- ・将来の実現性…これから必要なことを学ぶ  
全体的には「社会に出て行く上で必要な知識・技能」と「これからの将来の在り方・生き方」の2つに大きく回答が分かれていた。

### 3・9 その他キャリア教育に対する意見や要望

「その他キャリア教育に対する意見や要望」については、以下の回答があった。

- ・20歳になったら色々な事に対して自由になるので何が危険なのかをもっと知りたい。

卒業後の長期的なキャリア形成を見据えた支援を行うために、4の取組を進めることが重要であることからこの項目について述べてみたい。

## 4 卒業生・採用事業所アンケートの結果と分析

卒業後の令和7年5月に進路支援課が令和6(2024)年度保育学科2年生32人全員及び採用事業所にアンケートを送付し、追跡調査を行なっ

た。卒業生は調査対象32人のうち11人から、採用事業所は19事業所から回答を得ることができた。以下はそのうちキャリア教育に関連する部分を抽出したものである。

#### 4・1 卒業生アンケート

##### 4・1・1 現在の仕事における立場と具体的な職種

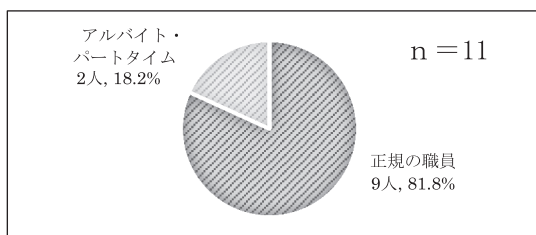


図13 仕事における立場

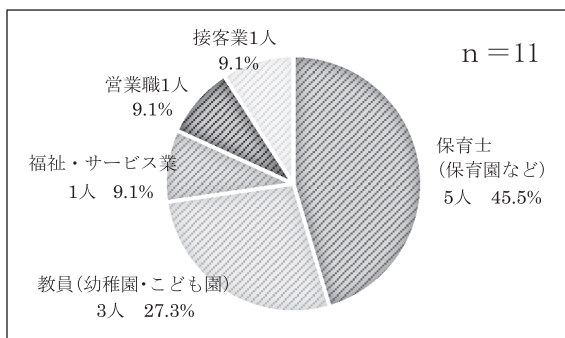


図14 具体的な職種

まず図13、14については、回答者の現在の立場と職種の回答である。正規職が9人でアルバイトが2人であり、そのうち8人が保育士や教員として就労している。

##### 4・1・2 仕事の満足度

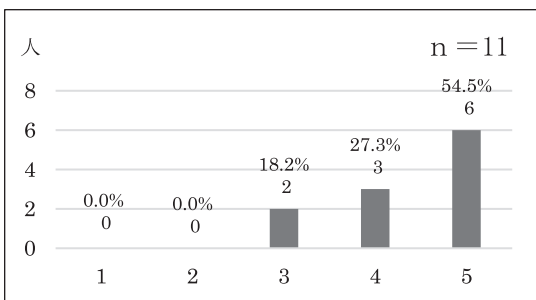


図15 あなたはどの程度今の仕事に満足をしていますか

仕事への満足度を5点満点で問うた問いでは、54.5%が5点、27.3%が4点、18.2%が3点と答

えており、平均で4.3点であった。本学学生の就職先は一般就職を除き実習で働いた職場に就職するため1点や2点の回答はないが、満足の度合いは回答者によりばらつきがみられた。

##### 4・1・3 短大で学んだことは役にたっているか

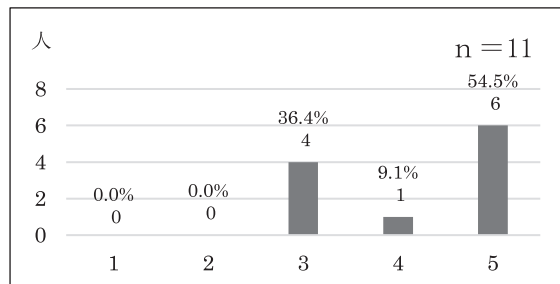


図16 短大で学んだことは役にたっていますか

短大で学んだことが役にたっているかについて5点満点で問うた質問では、半数以上の卒業生が5点と回答しており平均で4.2点であった。回答者の中には一般就職者もいるがほとんどが保育士や幼稚園教諭の資格により就職していることが高い点数にあらわれていると考えられる。

##### 4・1・4 社会に出て必要な能力

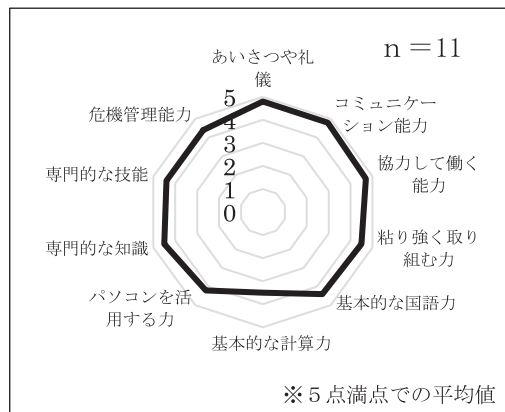


図17 社会に出てどの程度必要と思うか

図17は「基礎的・汎用的能力」を本学卒業生に対応する10の項目として具体化し、各項目について社会に出てどの程度必要と思うかを5点満点で調査したものである。最も高かった項目は「あいさつや礼儀」と「コミュニケーション能力」で(4.8点)、3番目が「協力して働く能力」(4.7

点)、4番目が「粘り強く取り組む力」(4.5点)であった。最も低かったのは「基本的な計算力」(3.5点)であった。

#### 4・1・5 人生において重視していること

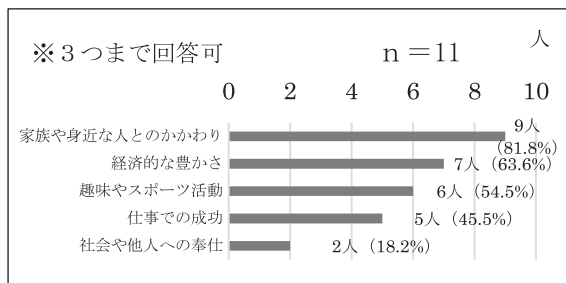


図 18 あなたが人生において重視していること

人生において重視していることは「家族や身近な人とのかかわり」が81.8%で最も多く、次が「経済的豊かさ」63.6%、「趣味やスポーツ活動」54.5%となっており、経済的な面だけでなく人とのかかわりや趣味やスポーツ活動も重視されていることがわかる。

#### 4・2 採用企業アンケート

##### 4・2・1 採用事業所からみた本学卒業生の概要

次の図 19、20 は実際に令和 6 (2024) 年度保育学科 2 年生が採用された事業所アンケートからキャリア教育に該当する部分を抽出したものである。

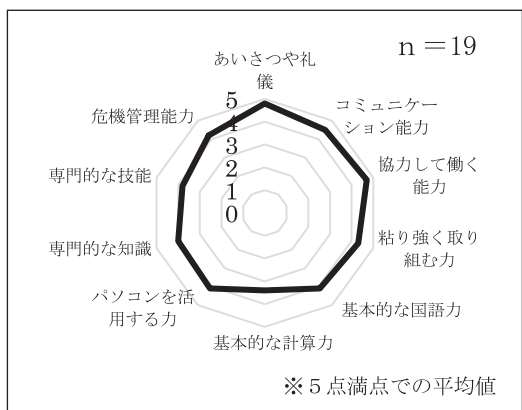


図 19 採用事業所から見た採用時に必要な力

図 19 は、図 17 で卒業生に対して社会に出て必要な能力について調査した項目と同じ項目で、採

用事業所から見た採用時に必要な力について調査したものである。

卒業生アンケートの図 17 と採用事業所アンケートの図 19 を比較すると、概ね同様の傾向が見られた。細かく見てみると「採用事業所から見た採用時に必要な力」で最も高かった項目は、卒業生調査と同じ「あいさつや礼儀」で (4.8 点) であった。2 番目は「協力して働く力」(4.7 点)、3 番目が「コミュニケーション能力」(4.5 点)、4 番目が「粘り強く取り組む力」(4.3 点) であった。4 位までに入っている項目は同じであるが、採用事業所アンケートでは、卒業生アンケートでは同率 1 位であった「コミュニケーション能力」よりも「協力して働く能力」が高くなっているのが注目される。

また、「専門的な技能」については卒業生アンケートでは 4.4 点、事業所アンケートでは 3.8 点と最も大きい差 (0.6 点) がみられた。これは「専門的な技能」については短期大学在学中に全て学べるものではなく、事業所の現場においてこれから身に付けて行くべきものであるからと考えられる。

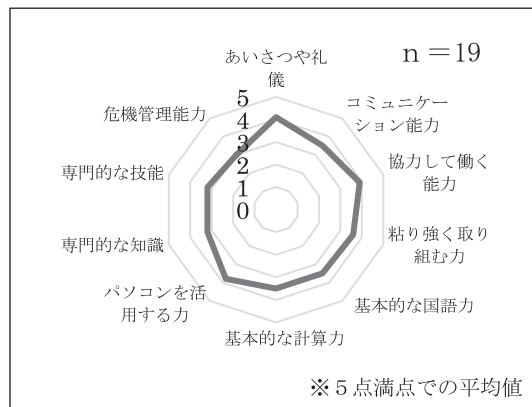


図 20 採用事業所からみた本学卒業生の身に付いている能力の程度

図 20 は「採用事業所からみた本学卒業生の身に付いている能力の程度」について 5 点満点で評価していただいたものの平均である。

最も高かったのは「あいさつや礼儀」(4.1 点)、次が「協力して働く能力」(3.9 点)、続いて「パソコンを活用する力」(3.8 点) であった。また、

最も低かったのは「危機管理能力」(3.0点)で、次が「専門的な知識」と「専門的な技能」(3.2点)、「コミュニケーション能力」と「基本的な国語力」及び「基本的な計算力」(3.5点)となっていた。また、全体の平均は3.5点であった。

この結果から最も低かった「危機管理能力」については、これまでの保育などの専門教育の中で知識として学習してきているが実際の事業所ではまだ不十分と考えられる。キャリア教育だけでなく専門教育と連携して伸ばして行く必要がある。また、図18及び図19で卒業生、事業所ともに必要な力で上位に入っていた「コミュニケーション能力」が3.5点と低くなっていることが注目される。前述のキャリア教育アンケートの学生から改善事項でも上がっていたように実践的・体験的な活動を増やし「コミュニケーション能力」の向上につながるような取組が必要と考えられる。また、「パソコンを活用する力」(3.8点)は1年次前期の「情報機器操作入門」で集中して学習し、その後講義の中で継続して活用していることからやや高くなっているが、日頃の教育活動全体を通して更に「専門的な知識」や「専門的な技能」を高めて行く必要がある。

## 5 おわりに

短大の保育学科には「資格がとれるから」、「周囲にすすめられたから」といった自発性の低い動機の学生が一定数存在している。こうした学生の中には、職業観・勤労観が十分に形成されていない場合もあるため、キャリア教育を通して、より望ましい方向へ育成していくことが重要である。

本稿では、令和6年度保育学科2年生のキャリア教育の実践、キャリア教育アンケート、卒業生アンケート、採用事業所アンケートをもとに本学のキャリア教育の取組について考察してきた。

令和6年度保育学科2年生のキャリア教育の実践では、やや網羅的な取組にはなっていたが、今後の人生や社会に出て行く上で必要な「基礎的・

汎用的な能力」の育成を目標に講義を行ない、学生の種々の知識や能力の獲得につながっていた。その一方でグループ活動やディベート等の活動では「課題対応能力」や「人間関係形成・社会形成能力」に課題があることがわかった。このことは、採用事業所アンケートでのコミュニケーション能力の得点にもつながっていると考えられる。

キャリア教育の授業改善については、現状は講義形式が多く受け身の活動が多いことが学生から課題としてあがっており、実践的・体験的な活動を増やし一般企業への就職希望者には短期のインターンシップなどを取り入れることでより主体的な学生の取組やコミュニケーション能力の向上につなげて行く必要がある。

課題となっているコミュニケーション能力や危機管理能力の向上にはキャリア科目だけでなく専門科目や保育施設実習等を含めた本学の教育課程全体を通じた取組が必要と考えられる。また、本学は保育士や幼稚園教諭養成施設であるため、保育士、幼稚園教諭、施設職員を目指す学生に向けたキャリア教育が中心となっており、就職までのビジョンは形成しやすいが、就職後のライフプランや生涯を通してのキャリア形成の支援がより充実できるよう講義内容の検討をすすめていきたい。

### 謝辞

本稿の作成にあたりご指導・ご協力いただいた、原田治幸氏、本学進路支援課天尾昇一氏に対して記して感謝いたします。

### 注) 参考文献

- 1) 文部科学省 キャリア教育  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm)
- 2) ユーザーローカル テキストマイニングツール  
(<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析

### ※ ライフラインチャート

自分の人生を時間軸で振り返り、心の充実度や満足度の浮き沈みを線で表した図のこと